

# 脳機能トレーニングソフト脳ぽちは認知症の関係がみられるか

正分ゆい<sup>1)</sup>, 吉田圭<sup>1)</sup>, 山田寛之<sup>2)</sup>, 藤野文崇<sup>3)</sup>

1) エントレリハ

2) 地方独立行政法人 りんくう総合医療センター

## 「はじめに」

近年、高齢化社会を迎え身体機能障害だけでなく認知症予防、早期発見は非常に重要な課題となっている。我々は、認知症に着目し脳機能トレーニングソフト脳ぽちを開発した。今回、脳ぽちが認知症患者の評価に用いられるHDS-Rと関係がみられるのかを検討したので報告する。

## 「方法」

対象は当施設を利用している高齢者9人（年齢：75.4±2.3歳，性別：男性5名，女性4名）とした。

HDS-Rは理学療法士が個々の利用者に質問紙を用いて点数化した。脳ぽちは、タッチパネル上の点灯した数字を押す手と目の協調性課題，タッチパネル上の点灯した2つの数字を足し算する計算課題，タッチパネル上の点灯した数字を記憶する記憶課題の3つをそれぞれ1分間実施した。統計はスピアマンの相関係数をもとに相関の有無を検討した。

## 「結果」

手と目の協調とHDS-Rは相関を認めなかった ( $r=0.22$ )。計算課題はHDS-Rと相関を認め ( $r=0.55$ )，記憶課題はHDS-Rと相関を認めた ( $r=0.62$ )。

## 「考察」

先行研究において音読や簡単な計算は認知機能や前頭葉機能の改善に有効であると報告されている。今回の結果においても計算課題と記憶課題において相関を認めたのは妥当な結果であると考え。そして、日々のデイサービス利用時に利用者に脳ぽちを利用して頂くことで認知症の症状の変化をリアルタイムに捉えることができるものと考え。